

船舶残務整理部

第二節 素質 教育訓練に就て

船舶部隊の母體である陸軍運輸部の幹部以下の素質

は支那事變前に於ては一部 特定の人を除くは

全軍的その他ありて

能力的にも體力的にも中 ~~下~~ 以下に見做

（全国より選抜せらる運輸部に於て）

即ち昭和四年頃より練習員として教育を受けし將校は

（定了）

當時極少の少数でありしか、わが海軍は中以下である

現場教育

知し教育そのものは實務教育を主として實施せらるるに

各期共短期間のみであつたが教育の成果は毎年

つたと言へる

編纂

支那事變勃発するや、砲台監督、同司令部等急遽に増

加したその幹部は前述練習員として教育を受けた者

（これら）

を以て充て 尚不足は年々の練習員を以て補充されたのである

而して 毎年將校は

練習員は現役若くは特別志願 より二〇名、下士官は現役

より 教育

四〇名を工兵、輜重を主とする他兵科より選抜の上 船舶輸送

此の通りである

司令部後の船舶司令部(中三部)(教育部)に於て昭和十八
 年二月十七日船舶練習部編成定結迄続々と然し従泊場司
 令部専らまはばめ他の船舶部隊即ち水上陸上建築各勤務
 隊揚陸隊等の下士官の専らまはばめは當時陸軍一般に艦船否此種
 輸送部隊の選抜の極めを低調なりしを反映して極めし
 下等であつた事は否である事案である
 而して船舶練習部創設迄に於ける船舶部隊幹部の教育は
 は当初運輸時代の中三部(輸送司令部)(船舶司令部)
 によりこの教育部(中三部)において練習員教育とは支那
 艦隊、上陸作戦戦術及同次戦の研究が行はれてこれか
 支那事変及今次戦争初期迄に至る船舶部隊戦力
 の源泉となるものがある 惟しに今次戦争初期に於ける
 船舶部隊幹部は此の種々の教育及研究に陣巻を以て
 賄ふ得たものがある

同
録

1100

船舶残務整理部

而して今次戦争

中期に至るや

戦域の拡大と敵の海空よりする強圧のため船舶作戦に著しき

変革を要するに至り従って作戦方式の研究 資料の研究をほため

船大並重要化して 船大並重要化して 昭和十八年二月

十七日 船舶作戦部 即ち船舶作戦部

は本部 工兵教導隊 下等作戦部 及一材料部

運用 部面 一新化を企てしゆび

更に船大補強推化して行船舶部 教育 練成の母體として

整備 招張の必要は遠らぬ 同年八月 研究部

砲兵教導隊 幹部候補生隊が 新に増加編成せらる 一段と教育

態勢が整備せらる 面目と 新いた 全く舟を知らず 僅か短時日

而して昭和十八年 船舶兵の補充をため 船舶工兵や 砲隊

補充隊を 機動輸送艦 高速輸送艦 戦術艦 等 補充

隊の 機動輸送隊 補充隊 海上 砲隊 補充隊 又 船舶

船舶残務整理部

通信関係將兵補充教育のため船舶通信隊補充隊が出来て
 日毎に膨大複雑化し而も重要性を増す船舶部隊運用の
 神経源 が必要となる
 此の頃には將兵の素養は先づ中程度であり、即ち船舶
 兵の重要性は伝へるに及ぶ全口より集つたものは概して
 良の方面あり 勿論 轉換者は かなり良き
 者を出さぬと言ふ影響を受けたる部面も事ありあるが當時
 は未だ壯丁の補充に足らぬ程の窮乏を感ずるは国内情勢のため
 のが今迄戦争末期に於けるよるな悲觀すべき状態ではなかつた
 昭和十九年一と云ふや 部隊は更に増強せられ内容は愈々複雑な
 なる 従つて教育部面 も各方面に至り拡張される
 即ち船舶司令部に増加配属せられし將校はもとより軍中
 各方面に暗号隊、氣象隊を編成し暗号、氣象
 教育の強化促進をはかつた 又潜航艇の補充せらるるに

船舶残務整理部

及公愛媛縣三島の潜水輸送教育隊が編成改置せられて陸軍

研究社

船舶練習部に於ける幹部教育と連絡として一般兵員の基本及

(五名)

練成教育に重点を期し、此の故者は前記の如く海軍潜水

(教育)

養成後更に将校下士官の百数十名を

養成に派遣するに必要ありと、遂に著及し、その研究の

研究の進捗に即して、

尚ほ其の如く、わが軍政も斯く終戦時には潜航、潜没、潜水

その他

持て、此の如く、海軍の一驚動する程になつたのである。

潜水、その如く

水上特攻兵器として、貯溜連絡艇(レ)の研究整備せらるるに及

び、船舶練習部に於ては、海上迫進戦隊要員として、全口より選抜

集合せり、第一期特別幹部候補生を主任とする教育隊を設け、

数千人、防艦上員部似の西方

史が、教育練成にいつと、此の如く、指導と絶大なる期待の下に

短期間、その如く、

比島の仲尾に、水上艦艇を、畏怖せしめ、訓練のを得たるある

此の故者は三十、戦隊を以て、應給し、教育隊も、昭和二十一年、国土

作戦の叫ばれ、情勢に、之より、遠更に、二十、戦隊を編成すること

なり、前記特攻教育隊を編成して、教育を開始し、教育は第一期

が、

の、

の、

の、

の、

伊豫

研究の進捗に即して、派遣に、昭和二十一年、教育を

（選抜）
並に三期の特幹生を主任と

船舶残務整理部

の陣営を再び整へしとけぬいし 船員増員、燃料は極度に急

（船員）

（燃料）

迫し第一期の如き十分な訓練は出来ずかつた故に皇土必勝の礎石

（あらゆる方面に創意工夫し）

とと敵方も並に必死の努力をこらへてある

（作戦計画の示すところ）

昭和十九年末に到る也 航空兵、船舶兵は 聖戦必勝の要

絶対必要なる兵種となり重なる急激なる拡張整備を要するに

（他兵種に比し）

至り余口より此丁も船舶兵には比較的主張見ゆるものが指定

と此等の要あり 然し余口此丁 補充隊が固濁一と

（此丁の）

（補充も體力も）

現地にはよきは甚多優良船とは言へ 往時の中ノ下程なとある

とと敵者練成部面から見て 劃期的補充を以ては同年

十日の要る 即ち敵者補充部面の最良司令官とて 教育船

船兵団司令官の編成を見る共に其の練下は船舶特別幹部候補生

（陸軍船舶練習部内）

隊の養成が主である 船舶幹部候補生隊が 船舶練習部

（同幹部候補生）

に、砲兵教導隊が 新編成せられた船舶砲兵団司令官幹部練下

（研究）

（失）

敵者特肉と一独立一隊の要る 尚他に船舶砲兵と一は対潜艦隊

初の大敗後

船舶残務整理部

の重要性とその絶対性に鑑み陣中に船舶情報隊が結成せられ

（当時の状況）

各種警戒機を整備し電報兵器部隊として華々しく発足した

（白毎に出張補給化する）

ある 又船舶兵站機団の温床として従来野次船舶本部内

あつた整備隊が船舶整備隊として生北整備せられた

人物の下に技術兵器育成の機因として野次船舶支隊要員

（船舶）

（唯一）

人及物の下に技術兵器育成の機因として野次船舶支隊要員

（海軍）

（技術兵）

船舶工兵 兵技兵要員、特種船舶要員、海上迅速整備隊要員

等を送り出すものがある

（兵隊員）

今迄戦争末期に至るや本土決戦準備のためあらゆる資材等

水で戦力化する施策を以て 何と云ふも今迄戦争初期精

（末期に至るや此等精鋭なる）

強部隊は皆南方海域に活躍し人及物等は

總て孤島に陣肉を艱するに至りし反面内地は人物物資

源漸く底をつき素屯の低下は露を得ずい事案あり

戦局の進展予甚以上の急進にして本土決戦態勢力の

（船中陣肉は勿論）

急速整備確々の叫はれ部隊は夜を日にくら速成なる

（一旦戦ふ戦地存者の主目になり）

船舶残務整理部

に拍車とかけしのあつる 然し素直は悪しなる習性持に

燃料は全く不足するし思ふ存分の積荷も練成積荷もあまふる

儘任務につかせたのである 又南方に残されたる人材も内地

作戦に参加せしめ 手段を盡し抽きの手を打たれぬのみ

あるが途中事故等の為完全な目的を達成する事かあまふ

惟かに 敵の妨害

今迄戦争初期には此種大型船による輸送も陸隊に伴

小舟艇の輸送であるが 戦局の進展につれ中期に至るや

舟艇機動及持物艇積荷となり愈々末期に至り本土

作戦を準備するに及ぶ敵者は此種戦地積荷方式に別る

と共に 即ち

理想とする上陸戦軍の方針に基き、船舶部隊の特性上

その有する強み我舟艇を帯けし特攻兵器として創意工夫

し殉忠を許決死必勝の念に燃え 推進制海